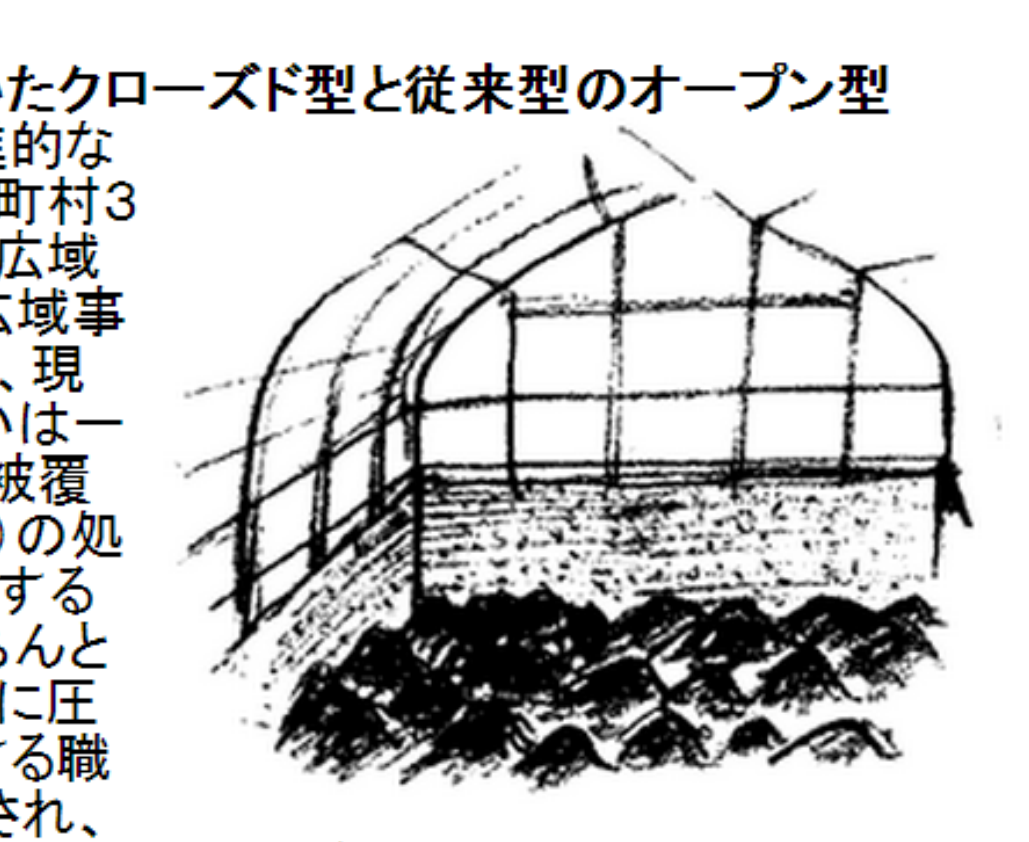
先進地の処分場を見て

八丈町のゴミ行政の行方を探る

1月下旬に、ゴミの処分場の視察に行ってきました。視察場所は、(1)高知県高吾北処理センターと(2)香川県内海町(小豆島)の埋め立処分地です。八丈町では今、管理型最終処分場の建設が差し迫っているなかで、オープン型とクローズド型の選択が議論されています。どんな処分場が八丈にふさわしいのかを見定めるために新人議員にも視察の機会が与えられました。

■事前勉強会
事前に、小宮山議員からの提案で勉強会をもちました。町の担当者と議長、視察に行く議員6名が参加して、町のゴミ行政について話し合いました。これまで大田区の溶融施設(焼却灰をさらに高温で焼き、スラグにする施設)に送っていた焼却灰を今後どう処理するかに議論が集中しました。
22日に上京、午後1時から一部事務組合の説明を受けました。夕方5時までじっくり話し合った結果、予算や他島の実情を考慮するとオープン型を受け入れることもやむを得ないのかなとの感触を持ちました。

■清潔で管理の行き届いたクローズド型と従来型のオープン型
23日高知へ。最近、先進的な処分場を建設したという5町村3万人規模の施設、高吾北広域処理センターに到着。同広域事務組合の説明を受けた後、現地視察。ここで昨日の思いは一変してしまいました。一部被覆型(いわゆるクローズド型)の処分場は焼却灰だけを投入する方式で、極めて清潔できちんと管理され、その素晴らしさに圧倒されたからです。説明する職員の熱い語り口にも動かされ、焼却灰以外のゴミ処理についても関心が深まり、クリーンセンター(焼却場)と中間処理施設も視察しました。



24日、フェリーで小豆島へ到着。役場で内海町のゴミ処理の実情について説明を受けた後、現地へ。ここは、海からせり上がるダムのような構造物に燃えないゴミと焼却灰と土を交互に埋めていく方式の、オープン型の処分場でした。ビニールなどが風で飛び散り、まわりの林にもゴミがからんでいるのが目につきました。ここでも、2年前にできたばかりのリサイクルセンターを見学しました。発泡スチロールの減容器や空き缶選別機やペットボトルの圧縮機、びんの粉砕機などが整備されていました。25日帰島。

■分別収集と中間処理施設の必要性を痛感———
28日の臨時議会終了後の全員協議会で、小宮山議員が視察の報告を行い、他の参加議員も一人ずつ感想を述べました。私は、他の島よりゴミ処理行政が進んでいる八丈だからこそ、環境に配慮したクローズド型を模索すべきだと発言しました。
初めての視察でしたが、先進地の施設と従来型の施設の両方を見られたことで、町のゴミ行政を広い視野で見直すことが出来ました。また同行議員全員が、どちらの町もゴミの中間処理施設が充実していること、分別収集の必要性を強く認識するなど共通理解を深めたことも収穫でした。
八丈町はクリーンアイランドとして内外にアピールし、地熱発電・風力発電・デポジット制度などを実施し、廃車処理など不燃物の委託業務が行われており、また、コンクリアスファルトリサイクル工場があるなど、他の島よりゴミ処理は格段に進んでいます。これに加えて、町民ひとりひとりの協力で、びんの再利用やダンボール・発泡容器・食品トレイの回収を徹底し、一方で生ゴミの堆肥化をすすめていけば、ゴミの減量は実現できるはずです。

■町の処分場問題、ポイントは———
今、一部事務組合(以下一組)が提案する処分場の問題点を整理してみると、
1．最終処分場の建設は八丈町単独でなく、伊豆諸島全体の広域行政事業であること(それぞれの島が応分の費用を負担して行う事業)。
2．一組の提示案は、オープン型で予算の上限は18億円であること。
3．埋めたて容量5万�Gの処分場は、大島と八丈島の2ヶ所に建設することが決まっていて、大島は既にオープン型に決定していること。
4．一組は、大島がオープンで、八丈がクローズドには出来ないと回答していること(一組の試算ではクローズド型は28億円で多額の費用がかかるから)。
5．現在大田区に送っている焼却灰は、18年度以降は受け入れられないことが決定しているので、時間的猶予はないこと。などです。
議会と一組とで何度も議論を繰り返してきましたが、クローズド型を要望する複数の議員の気持ちはわかるが予算面と気象条件から無理だと、いつも同じ答えが返ってくるだけです。上述のような事実をつきつけて議会に決断を迫っているような気さえします。オープン型とクローズド型の試算に妥当性があるかどうかも問題にするべきでしょう。また、処分場にどんなものを入れ今後ゴミの中間処理はどうするのかについての青写真が示されないまま、一組主導で進められていることに疑問を感じます。いずれにしても町は決断しなければなりませんが、町のゴミ行政について、独自の未来像を描きながら政策を決定するという強い姿勢が必要だと思います。

総務文教委員協議会(総文)では……

1月14日、2月20日の2回、私が所属する総文が開かれました。主な議題のひとつは、住民から要望の出ていた「健康機器ヘルストロンの設置に関する要望」についてでした。私を含め委員の多くは、「特定商品導入についての要望は採択できない」「安全性を確認すべきだ」「同様の機器があるのになぜこの機種なのか」「日進月歩の時代、より効果の高い機器が出たらまた買うのか」などの疑問点を指摘し、この要望は継続審議となりました。ところが、2月の委員会で再び取り上げられたので、私は総文に付託されて出された結論の重みと、上述の疑問点を述べました。ここでも多くの委員が継続を主張したので、「継続審議」となりました。

もうひとつは、中之郷小学校と樫立小学校の統廃合問題でした。教育委員会からは、これまでの経過と今後の方針が説明されました。委員からは賛否両論がだされましたが、坂上地区の人口減少、子供の教育環境、財政難などを考慮すると統合はやむを得ないとの意見が大勢を占めました。

主な議会活動　1月～3月

1月　5日成人式出席　14日総務文教委員会、協議会　22-25日高知県、香川県
　ゴミ最終処分場行政視察　28日臨時議会

2月　10日全員協議会(最終処分場に関する質問に対する一組の回答について)
　19日国保運営協議会　20日総務文教委員会、協議会

3月　定例会。6日 町長施政方針表明。14年度補正予算。18日一般質問、土屋
　博、沖山芳清、小宮山建、伊勢崎和鶴右衛、山下松郎、沖山道、奥山幸
　子、菊池孜行、菊池睦男の9人が質問。パラオ大統領表敬訪問。イラク
　攻撃反対の意見書可決。19、20日 15年度当初予算一般会計審議可決
　24日 15年度当初予算特別会計・企業会計審議可決。28日 14年度補正予
　算ほか。

恒　例　ビーチクリンアップ

「きれいな海大好き会」(事務局、奥山幸子)主催の海岸清掃、春のビーチクリンアップを5月4日(日)に行います。場所はいつも通り横間海岸。2時に現地集合。4時からのうちあげは、会費500円、中高生は200円、小学生は無料。今回は春なので、ゴミ調査はしません。小雨決行ですが荒天候の場合は翌週に延期します。

3月議会の一般質問

今回は9人の議員から質問が出されました。私は以下の2つの質問をしました。

1「なんでも聞きます」窓口の設置について

議員になって以来、多くの住民の方から要望や疑問が寄せられました。町の職員には言いにくい、また議員に言った方が、物事が早く解決すると思っている住民が多いのも事実です。しかし中には直接町の職員に聞けばわかることもあります。また、島外からの問い合わせについても、親切かつ的確な対応が望まれます。
そこで、町役場の一角に「なんでも聞きます」という窓口の設置を要望いたします。
電話やメールで、あるいは直接、身近な苦情や疑問や要望を受け付けます。それを窓口職員がふさわしい部署に振り分け、担当者の答えを問い合わせた人に回答するというしくみです。職員が多忙なのは承知していますが、行政サービスはもっともっと充実させるべきだと思います。このような、「なんでも聞きます」窓口の設置の提案に対し、町はどのようにお考えでしょうか。

答弁…公聴ハガキなどで住民の声は聞いている。また、これまでも苦情や要望をふさわしい部署に託し回答をしている。今のところ新たに設置する予定はない。

再質問…公聴ハガキは年間わずか50通ほどとか。より相談しやすい雰囲気をつくることは、住民との距離を縮める上で効果が大きいと思いますので是非ご検討下さい。

2 外来動物の導入を規制する条例の必要性について

近年、世界中で「外来種問題」が注目されています。それは、外来種が日本在来種の生息を圧迫して、生態系ばかりでなく、地域社会にも影響を及ぼしているからです。伊豆大島ではタイワンリスによる椿の実の食害が問題になっています。本土でも外来種による同様の被害は数多く報告されています。
このような問題に対して、分野や管轄省庁の枠を越えて、政府としても「 外来種への対策」を強化していく姿勢が見られます。さらに、最近では「外来種が入ってからの対策ではなく、外来種の導入を制限する」という方向に大きく流れが動いています。
外来種と言えば、八丈島でも古くはホンドイタチに始まり、クワゴマダラヒトリ、リュウキュウハナムグリ、ミナミヤモリなど多数あげられます。離島という限局した生態系に影響力の強い外来動物が導入された場合、生態系が受けるダメージが大きいことは、明白です。外来動物が入って増殖してしまってからでは、その対策に費用も労力も多大に費やされることになります。また、動物愛護的視点からも、駆除というのは最後の手段として選ばれるべきです。
観光立島、八丈島の最大の魅力は手付かずの自然です。この自然を守っていくには島の中の動植物を守ると同時に、まずは外来動物を入れないような規制や条例が必要だと考えますが、町長はどうお考えでしょうか。

答弁…外来種の導入に対する規制が、国レベルで進んでいるということであれば、あえて今町の条例をつくる必要はなく、国の方針が決まった時点で対応していく。

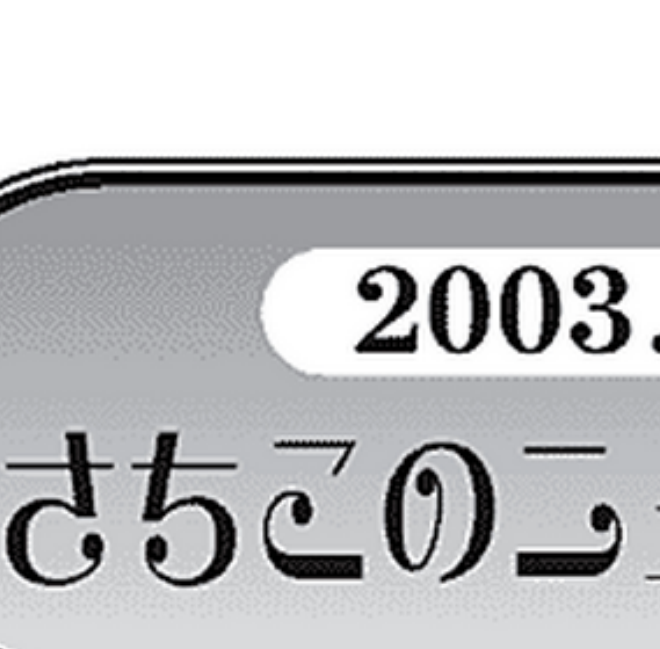
再質問…大きな枠で国の規制があれば、八丈という限られた地域にふさわしいきめ細かな条例や規制がつくれるのだと思う。国に先駆けて実現すれば、全国から注目されるはず。町の積極的な対応を望みます。

「米英のイラク攻撃に反対し、平和的解決を求める意見書」可決

3月18日ブッシュ米大統領が、フセイン大統領に最後通告を付きつけたという報道が流れました。私はすでに2月末、「米国のイラク攻撃に反対し、平和的解決を求める意見書」を提出していましたが、議会運営委員会で慣例に従って議会最終日に上程することが決まっていました。しかし、この緊迫した事態を受けて、「米英のイラク攻撃に反対し、平和的解決を求める意見書」が小宮山建議員より緊急動議として提出されました。議会は討論の結果、この意見書を賛成多数で可決しました。
イラク情勢が予断を許さない状況のなかで、議会初日に間に合うようにと思っていたので、少なくとも戦争が始まる前に議会採択が実現したことに、少しホッとしました。

平 和 行 進

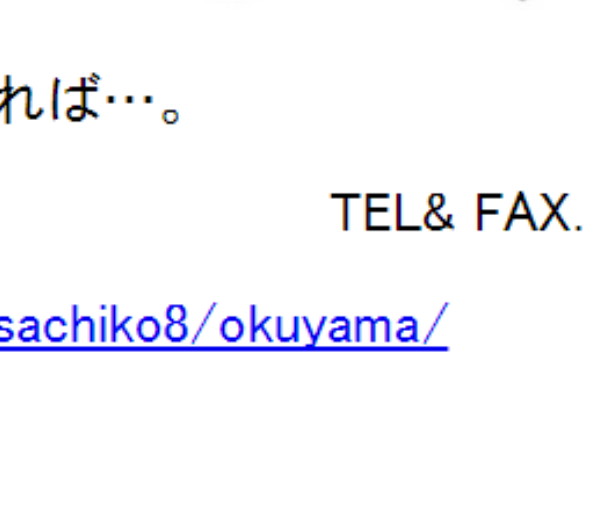
どんな戦争も受け入れられない、そんな思いを行動に移そうということで企画された3月30日「平和行進」に参加しました。三根公民館から大賀郷公民館まで約1時間のパレード。力強いシュプレヒコールに少しビビりながらも、反戦の気持ちをアピールできたと思います。こうした反戦デモは八丈では初めてとか。ペースメーカーをつけた人も、赤ちゃん連れも含め約70人が参加。
世界中で反戦運動が渦巻くなかで、八丈の住民も連携して行動できたことは素晴らしいことでした。



視察費用

旅費は、目的地によって条例の規定に基づいた額が算出されます。今回は、一人139,290円。私の場合、交通費・宿泊費などに119,360円かかり、29,660円残りました。これはぜひ町にお返ししなくっちゃ！ところが、町では受け取れないのだそうです(議員の寄付行為にあたるから)。予算を超えたら議員から徴収し、残ったら有効に使ってもらうということでした。
財政難の折、恐縮ですが、個人で視察に行くときに使わせていただきますのでどうぞご了解下さい。今後、旅費、先進地視察費、委員会・審議会報酬のあり方について、見直しを提言していきたいと思います。

編 集 後 記



3月の定例議会は15年度当初予算を決める大切な議会です。先輩議員に聞いたり資料を調べたりして、関心のある分野についてはいくつか質問しました(在宅医療の現状、ふれあい牧場の風力発電、小島のヤギの利用についてなどです)。これまでにない緊縮財政のなかで、町はどの部分を削減し、どの部分を重要視するのかが問われています。私も議員のひとりとして行政のチェック機能を果たせるよう、もっと勉強しなければ…。

奥山幸子後援会　八丈町大賀郷2539　　TEL& FAX.
2－1433
ホームページ　http://www7.ocn.ne.jp/~sachiko8/okuyama/
Eメール　adandaka@sepia.ocn.ne.jp